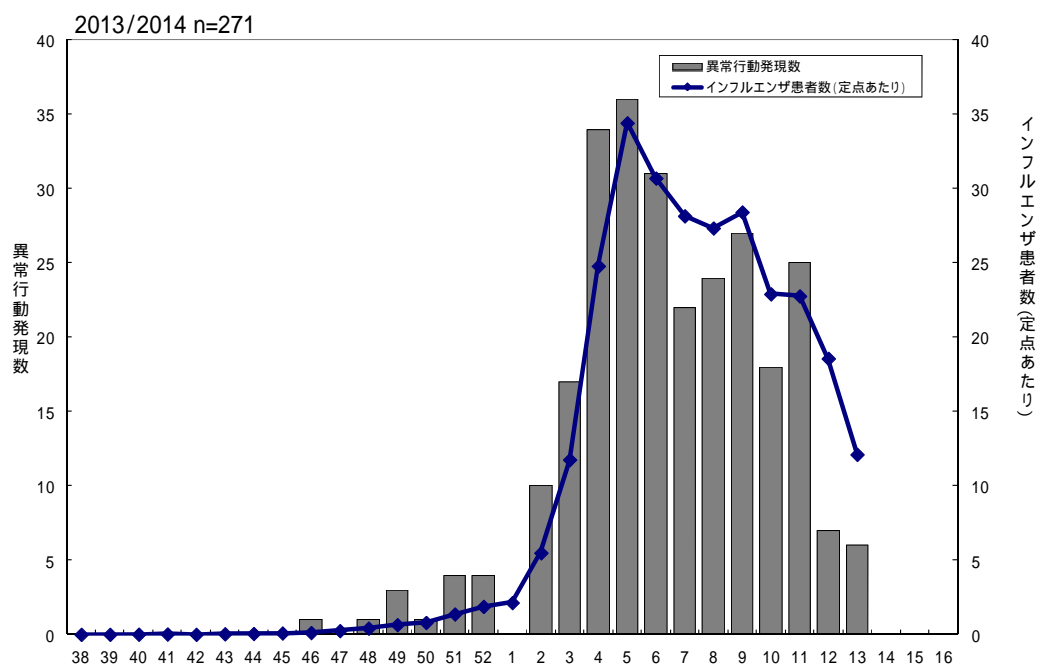


図1. 異常行動(軽度)の発熱週と発生動向調査



1

図2. 患者の年齢

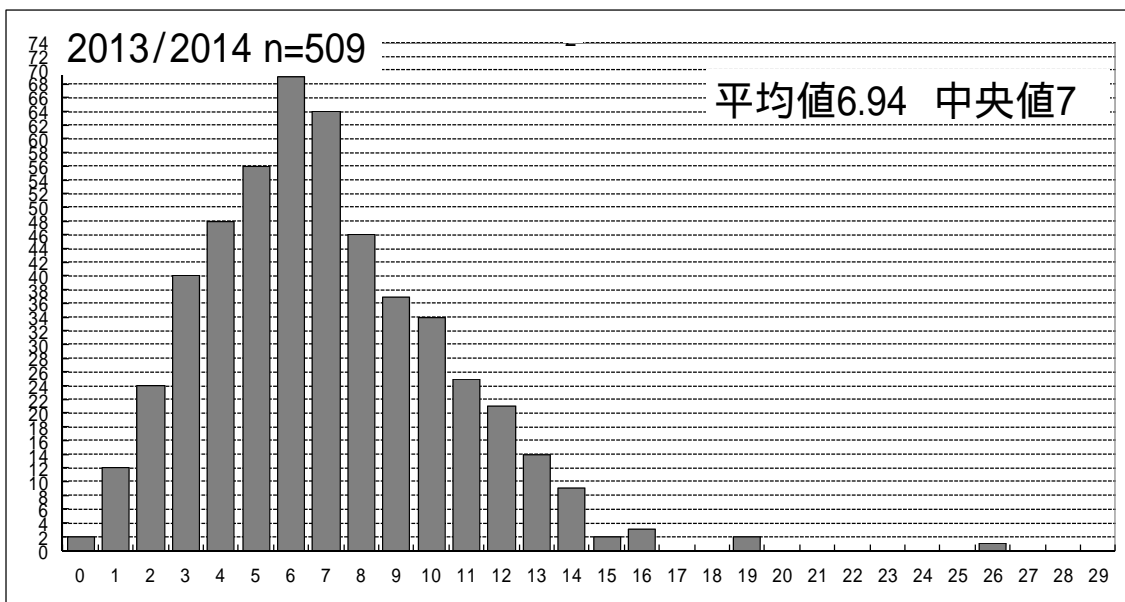


図3. 患者の性別

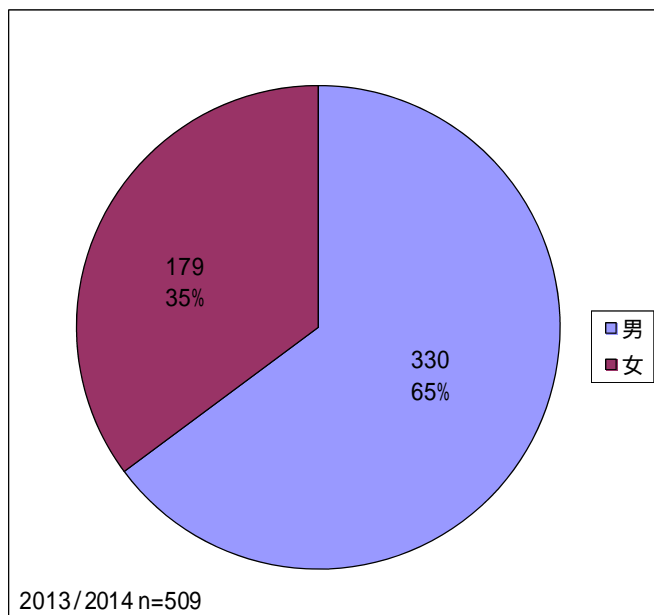


表 1 . 2013/2014 シーズンの全ての軽度の異常行動の発現における性差

(A) 5 歳未満と 5 歳以上 10 歳未満における性差

(症例数)

	5 歳未満	5 歳以上 10 歳未満
男性	72	169
女性	54	103

厳密検定の確率値=0.378

(B) 6 歳未満と 6 歳以上 10 歳未満における性差

(症例数)

	6 歳未満	6 歳以上 10 歳未満
男性	108	133
女性	74	83

厳密検定の確率値=0.681

图 4 . 最高体温

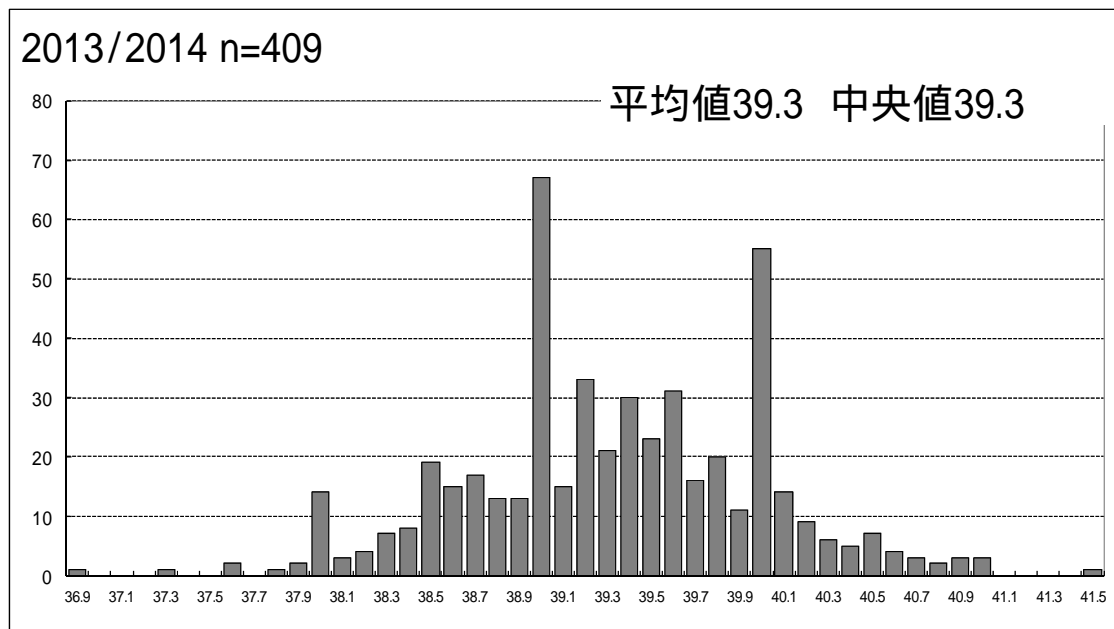


図5. インフルエンザ迅速診断キットの実施の有無

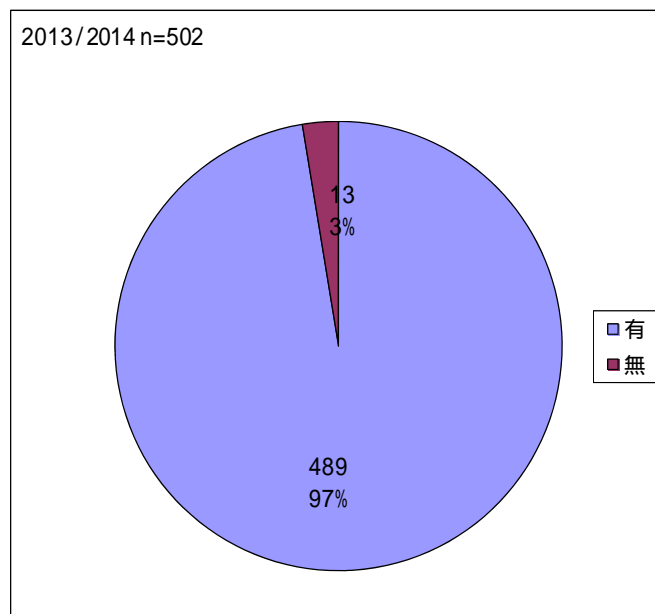


図6. 迅速診断キットによる検査結果

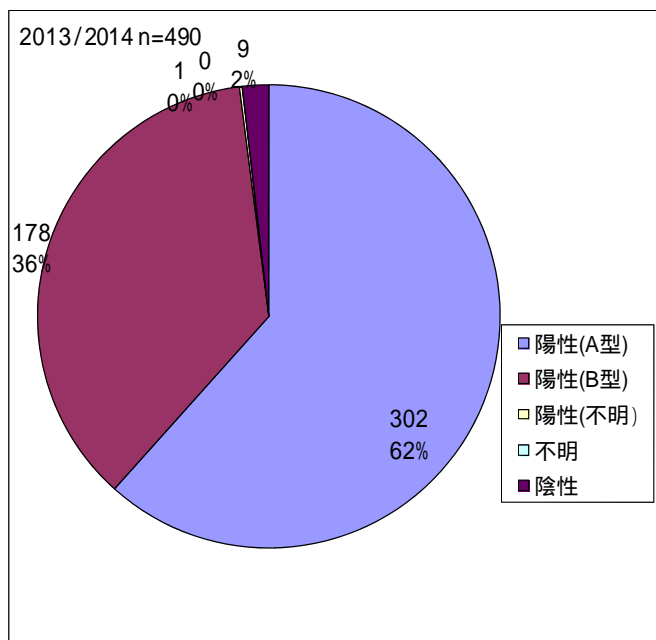


図7. 異常行動と睡眠の関係

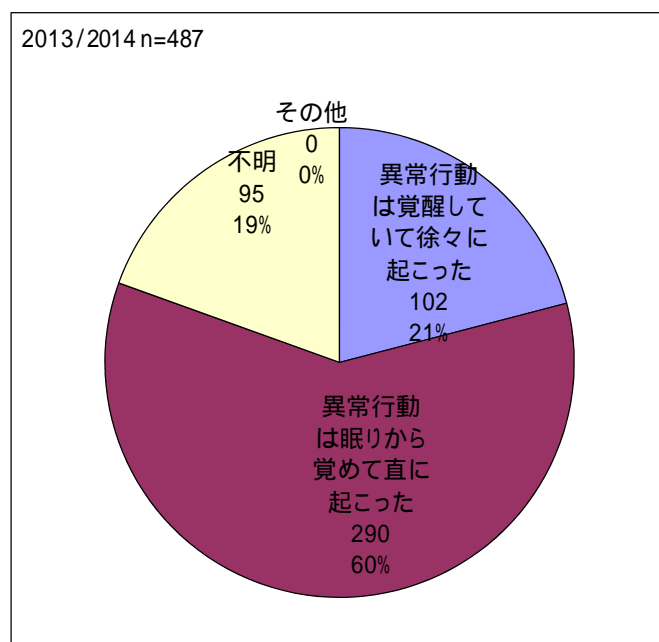
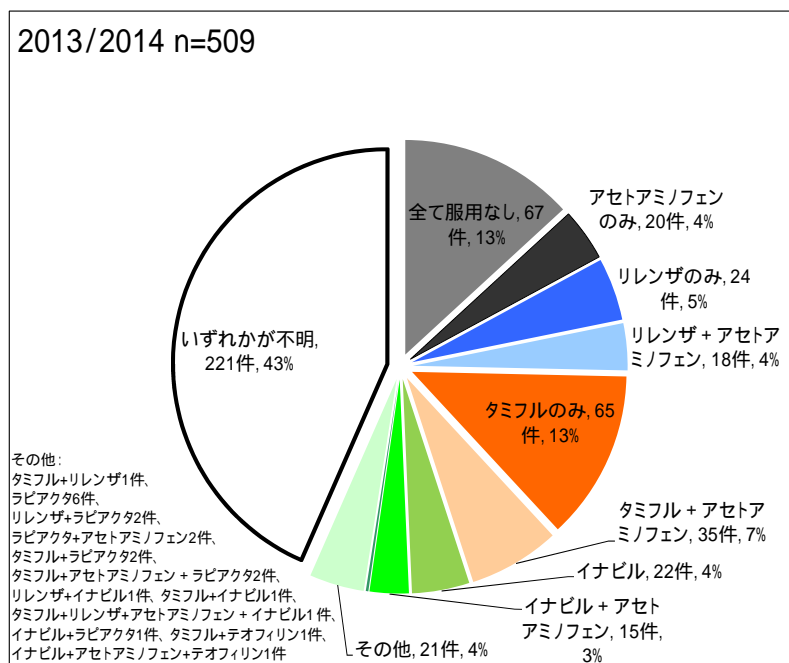




図 8 . 服用した薬の組み合わせ



注：オセルタミビル、アマンタジン、ザナミビル、アセトアミノフェン、ペラミビル（2009/2010以降のみ）、ラニナミビル（2010/2011以降のみ）、テオフィリン（2012/2013以降のみ）の7剤の服用の有無が明らかな症例についての内訳。7剤のうち一部の薬剤服用があっても、他の調査薬剤の服用状況が不明な症例は「いずれかが不明」に分類。

図9. 異常行動の分類（複数回答）

